



Prognostic implications of prealbumin level on admission in patients with acute heart failure referred to a cardiac intensive care unit

著者名	沼田 まどか
発行年	2020-05-15
URL	http://doi.org/10.20780/00032724

主論文の要旨

Prognostic implications of prealbumin level on admission in patients with acute heart failure referred to a cardiac intensive care unit

(CCU に入院した急性心不全患者におけるプレアルブミン値の予後的意味)

東京女子医科大学循環器内科学教室

(指導：萩原 誠久教授)

沼田 まどか

Journal of Cardiology 第 73 巻 第 2 号 114 頁～119 頁 (2018 年 10 月発行)

に掲載

【要 旨】

急性心不全入院患者の入院時プレアルブミン値と長期的な予後の関係について検討した。東京女子医科大学病院 CCU に 2014 年 1 月から 2017 年 2 月の間に急性心不全の診断で入院した患者 (322 人) のうち、CCU 入院時にプレアルブミンを測定することが可能であった 186 人を後ろ向きに検討した。

経過中の総死亡に対する ROC 曲線から算出したプレアルブミンのカットオフ値は 14 mg/dL であった。プレアルブミン 14 mg/dL 以下の群をプレアルブミン低値群として、プレアルブミン高値群との 2 群に分けた。両群間で入院後の総死亡を比較すると、プレアルブミン低値群は入院後の生命予後が不良であった。入院時の年齢、性別、左室駆出率、BNP、BUN、アルブミン、CRP、総コレステロール、中性脂肪を含む 3 つのモデルで多変量解析を行った結果、プレアルブミン低値は入院後の総死亡、および総死亡と心不全による再入院の複合エンドポイントの独立した規定因子であった。

入院時のプレアルブミン値が 14 mg/dL 以下は、急性心不全入院患者の生命予後不良因子であった。入院時にプレアルブミン値を測定することが、急性心不全患者のリスク層別化に有用である可能性が考えられた。